

●編集発行 財団法人 郡山地域テクノポリス推進機構

郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会

〒963-0101 福島県郡山市安積町日出山字北千保19番8 ビッグパレットふくしま3階 ☎(024)947-4400 FAX(024)947-4475

■ホームページのアドレス <http://www.techno-media.net6.or.jp>

■Eメール [テクノ] techno@nm.net6.or.jp [ニューコム] info@nm.net6.or.jp



Techno Topics

平成15年度テクノポリスの重点目標 研究開発・新事業創出と 受注再生をめざして

郡山テクノポリス圏域の製造業の現状をみますと中国などへの生産シフトが加速する中で取引先からの受注先細りや新規受注の減少、単価の下落など厳しい環境下に置かれています。

そうした中で活路を見いだすために新製品・新事業創出などの研究開発に取り組み企業が一段と増えていますが、試作品や製品は出来たが「売れる商品にならない」、い事業構想はあっても利益を生み出すまでに至らない等、具体的成果に結びつかないケースが多いようです。

平成15年度 郡山地域テクノポリス推進機構は地域製造業の課題である「研究開発・新事業創出」と「受注力の再生」を重点目標に事業計画を策定しました。

主な重点事業は次のとおりです。

- 1 経済産業局、福島県と連携しながら「戦略的アライアンス形成会議」を設立します。（右下枠掲）同時に「客員アドバイザー制度」を設けて外部頭脳の導入・活用を図ります。
- 2 研究開発・新事業創出に取り組まれる企業、グループを人的・制度的に具体的成果が見えるまで継続的に支援する仕組みをつくりまします。
- 3 研究開発のシーズを見つげるための「テクノズームアップセミナー」とニーズを見つげるための「新事業探索ブレインストーミング」を継続開催します。
- 4 産学官連携を拡充強化します。
- 5 テクノ推進機構に技術系職員を複数配置し、日本大学工学部技術サポートオフィスとの連携により問題解決能力の向上を図ります。
- 6 製造業と情報系企業との連携の場をつくりまします。7ものづくり系のインキュベータ機能のあり方、構想づくりに着手します。



「戦略的アライアンス形成事業」立ち上げ

当財団では、平成15年4月を目指し「郡山地域戦略的アライアンス形成会議」を立上げるため、圏域内代表企業をメンバーとして検討に入りまします。成案が得られ次第各企業に対し「形成会議」への参加を呼びかけていく予定です。本形成会議の狙いは、圏域内に集積している優れた製造業を核とするアライアンス（連携、連合）を形成することにあり、各種産業振興支援施策の受け皿形成、研究開発活動の推進、海外も視野に入れた受注力の推進といった積極的な活動を戦略的に展開することを目指してまいります。これら施策の背景として、圏域内製造業が、受注量受注単価の低迷、新規受注の減少又は研究開発指向の企業が多いにもかかわらずその成果が実績に結びついてこない等の現状に直面しており、何とか打破していく必要があるものと痛感されます。一方、東大阪、長野県、大田区、山形、米沢地域、花巻地域等々当圏域と同じような状況にある地域においては、既に各種の施策がダイナミックに取り組まれている様子が伝

評議員会・理事会が開催されました。



▲2月21日に開催された理事会

2月14日（金）に評議員会、2月21日（金）に理事会がともにビッグパレットふくしまにおいて開催されました。それぞれ平成14年度の補正予算、平成15年度の事業計画、予算が審議され、原案のとおり承認されました。

- また、任期満了に伴う役員の変更が行われ次のとおり平成15年4月1日から2年間の役員が決まりました。
- | | |
|------|----------------------------|
| 理事長 | 大高善兵衛（郡山商工会議所会頭） |
| 副理事長 | 藤森英二（郡山市長） |
| 副理事長 | 川手 晃（福島県副知事） |
| 常務理事 | 大塚 淳（郡山商工会議所常務理事） |
| 理事 | 相楽新平（須賀川市長） |
| 理事 | 木賊政雄（鏡石町長） |
| 理事 | 西牧立博（石川町長） |
| 理事 | 車田次夫（玉川村長） |
| 理事 | 伊藤 寛（三春町長） |
| 理事 | 丹野一男（福島県商工労働部長） |
| 理事 | 深谷幸弘（須賀川商工会議所会頭） |
| 理事 | 滝田 武（郡山地区商工会連絡協議会長） |
| 理事 | 古寺福喜（玉川村商工会長） |
| 理事 | 大槻順一（郡山商工会議所副会頭） |
| 理事 | 小野沢元久（日本大学工学部長） |
| 理事 | 近藤達男（福島県ハイテクプラザ所長） |
| 理事 | 斎藤信一（財団法人福島県産業振興センター理事長） |
| 理事 | 小針健治（福島県中部経営者協会会長） |
| 理事 | 佐々木恭之助（東北電力株式会社常務取締役福島支店長） |
| 理事 | 壁谷保彦（郡山市商工労働部長） |
- なお、瀬谷俊雄理事（福島県銀行協会会長）については今期で退任されます。評議員については、全員再任となりました。

わつてきています。今の世の中、何かをするリスクよりも何もしないリスクの方が遙かに大きいと言われています。当財団では、前者を中心に捉え、本事業を平成15年度の重点事業と位置づけ積極的に推進していく考えです。

- 本「形成会議」は次の事業を骨格としていく予定です。
1. 参加企業の経営資質の向上に寄与する事業
 2. 各種産業振興支援施策の研究・活用に関する事業
 3. 研究開発の推進に資する事業
 4. 高度技術に立脚した受注力の確保に資する事業
 5. その他

具体的な実施内容としては、機械設計・電気・電子・情報系企業及び研究開発型企業業種を問わずを中心に圏域内企業50〜70社程度により発足させ、その後業種・会員数の枠を広げ、かつ、必要に応じて圏域外企業の参加も呼びかけることを考えています。またアライアンスを効果的・効率的に運営するために、経営コンサルタント、学識経験者、商社等をメンバーに「客員アドバイザーグループ」をつくり「形成会議」を全面的にバックアップする体制を整える予定です。

新春セミナー&ハンドブック

県とテクノポリスの共催により、1月20日(ビッパレット)ふくしまと1月21日(須賀川)の製光苑で「新春特別セミナー」を開催し、両会場併せて約1,000名の方が参加されました。講演ではマシメントコソラルタンの佐久間陽一郎氏から「グローバル化の中で成長をめざすための経営戦略」と題してお話しいただきました。

講演の冒頭で佐久間氏は、「日本の経済力は落ちてしまつた。その中で中小製造業がどのように生きていかなければならないかが今の最大のポイントである。」と切り出され、その中で成長戦略をどのように考えていくかについてお話をすすめられました。

先生は、「淘汰の時代は過ぎて通れない。最後は自分さえよければいい。自分が残った瞬間成長戦略が描ける。」と語り、「戦略とは何か。戦略というものをきつちり考

え直せばいろいろな発見があるはずだ。」と続けられ、「戦略とは、企業の資産を最大限に活用する道を選ぶことと定義し、戦略は言語化すると違つた。そして、お話しされました。そして「既存の事業の戦略を考へることが大事である。」と、その手法を挙げられました。

さらに、「中小製造業と言つて、いる皆様は、実は製造サービス業である。そう考へることでだぶ違つてくる。これが最大のポイントである。」と力説されました。

最後に、「自分の身の回りについて、あまりに当たり前のことをもう一度考へ直して、それを言語化して行動に移す。これが戦略である。是非戦略というのをもう一度考へ直していただきたい。」と結び講演を終えました。

なお、今回の講演の内容は先生が執筆された「中小製

動画映像の制作から配信までの技術を学びました。

総務省と福島県の補助を受け県内ではじめてデジタル映像技術者を育成する「ブロードバンド促進デジタルコンテンツ制作研修会」を1月20日から2月5日全10日間、まで、ビッパレットふくしままで開催しました。市町村職員をはじめIT企業S/Oなど17名が

作品集

- 時代の流れとともに ~変わる質屋~
- 生ゴミ
- ユニバーサルデザインを生活に
- 郡山市安積疏水

受講し、現役のプロから、映像コンテンツの制作に向け、ビデオの操作、企画・構成・収録の基礎・仕上げに至る全工程を学びました。受講者は、4グループに別れ、それぞれテーマ毎に、取材から収録ロケまでを行い、約5分程度の動画を制作し、その作品をインターネットにアップする技術を学びました。受講者の皆様は、今回の研修を活かした動画の自主制作への取り組みをグループに期待したいと思つています。なお、受講生の作品につきまとは、ホームページにアップしておりますのでぜひご覧ください。



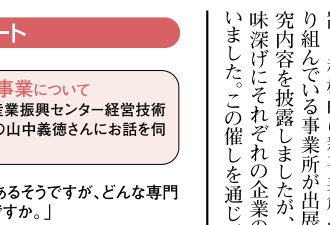
「IT産業リトリート」開催

IT分野を対象に、実際に市場で生き抜けるナレッジキャリア(知識技能者の養成を進める)IT産業リトリート推進事業の後期分として「システム管理者養成コース(全60時間)」と「ネットワーク管理者養成コース(全80時間)」を1月から3月まで、日本大学工学部と連携して実施しています。

「システム管理者コース」には、離職者やS/Oの方10名が受講し、初級シニアのキャリアアップに向けた研修を行いました。

「ネットワーク管理者コース」は2月17日に開講し、受講者10名は、ネットワークシステムの設計・構築など専門的な知識について、日本大学工学部の教授陣から指導を受けています。今後、研修後のフォローアップとして、離職者向けの相談会やネットワークづくりを積極的に進めていきたいと思つています。

なお、平成15年度も今回同様の研修コースを開催する予定です。別途参加者募集を行いますので、ぜひ受講ください。



「IT業界における」ビジネスプラン作成講座」を1月14日・17日・23日・24日の六日間開催しました。

本講座は、シミュレーションのM/B/E/T(マーケティング)の手法を活用しながら、より実践的な形でビジネスプラン作成のトレーニングを行うといった内容で、経営者や大学生など6名が受講しました。講師として柳シユタインバイスヤンの高橋洋一郎氏が指導にあたり、受講者からは今後の業務推進等に十分役立てることができると大変好評でした。

「IT交流プラザ」業種別グループ毎に熱い意見交換

本年度4回目の「IT交流プラザ」を2月24日(月)にビッパレットふくしまで開催し、会員37名が参加しました。今回のテーマは、同業種間の情報交流がメインで、①Web・インターネット関係②ソフト開発関係③教育パソコン関係④の3グループに分かれ、各業種の抱える課題、今後の地域における事業展開の可能性などを討議しました。全体交流では、懇談内容の発表や

グループでの今後の具体的な事業の進め方などの報告がありました。今後もこのグループ別懇談会を継続し、分科会の立ち上げを目指すとともに、会員のニーズに沿ったプラザの運営に努めます。未加入の方は、ぜひ登録ください。登録はホームページから <http://www.techno-media.net6.or.jp>



「ITスキル」

長引く景気低迷の状態を打破するべく、新しい製品・技術サービスを有する企業が結集し、情報発信・販路開拓技術交流を行うことを目的として、「ビジネススクリエーション東北2002」が、去る平成14年11月21日(木)・22日(金)の両日、ビッパレットふくしま1階の多目的展示ホールをメイン会場として開催されました。期間中は2日間過去最高の7千3百名を超える方々に来場いただきました。

テクノポリスでも「テクノポリスコナー」を設け、積極的に新事業創出や新技術の開発に取り組んでいる事業所が出席し、その新製品や研究内容を披露しましたが、来場された方々は興味深げにそれぞれの企業の担当者の話を聞いていました。この催しを通じて成立した商談は、1

「ビジネススクリエーション東北2002」が開催されました

昨年12月19日、郡山市主催「テクノポリス共催による」経営と技術を考える交流会が開催され、郡山市内の事業所を中心に約80名の方が出席されました。当日は、第一部の基調講演として、国際政治学者・浅井信雄さんから、「この激動の時代をどう乗り越え対応するか」と題してお話を伺いました。浅井さんは、「景気が悪いと言われるがそれはパブル期と比べるからそう思うのであって、戦後すぐに比べれば楽なもの」と話しをされ、さらに「国内のどの都市も「天竺米」を目指しているが、現在の状況では不可能なことなので、まずまずの街を本質を見極め、自分で考え、欲張らない生き方をどうすることが大切になっているか」とお話しされました。

第二部では、財団法人システム研究所の佐藤隆雄さんをコリエーターとして、日本大学工学部次長の倉田光春さん、郡山商工会議所副会長の磯藤順一さん、日刊工業新聞福島支局長の伊藤美さん、松下電工郡山工場長の富崎武彦さんをパネラーに迎え、「明日の郡山」ものづくりを拓く」と題して、パネルディスカッションを行い、各パネラーが日常業務の中で感じている「産学官連携」のあり方について討議を行いました。参加された皆様も今後の事業展開を考へるうえでの参考にしようと思つていました。

「経営と技術を考える交流会」が開催されました。

月未現在で80件を数え、さらに現在進行中の商談も数多くあるなど、大変、有意義な催しでした。今後、テクノポリスでは、「ビジネススクリエーション東北2002」のような催しに積極的に参加し、地域の情報発信を行っていくと考へております。

テクノリポート



専門家派遣事業について
「(財)福島県産業振興センター経営技術支援課副主査の山中義徳さんにお話を伺いました。」

- テクノ君 「センターに専門家派遣事業があるそうですが、どんな専門家の方を派遣していたのですか。」
- 山中 「はい、中小企業診断士や技術士、情報処理技術者、大学等の学識経験者、企業実務経験者など専門知識や実務経験を有し、当センターに専門家として登録された方々となります。また、希望する専門家が登録と受けることができます。」
- テクノ君 「派遣の対象となるのはどんな方ですか。」
- 山中 「これから創業しようとする方や創業まもない方、または、経営の向上を目指す中小企業者(個人事業者や組合等も含みます)の方々と、専門家の派遣により支援の効果も期待される場合となります。」
- テクノ君 「例えばどんな場合に派遣を受けるといいんですか。」
- 山中 「そうですね、例えばこれまでのアイデアを具体化して創業したいとか、新分野へ進出するための製品開発や新技術、販路等についてアドバイスを受けたいとか、社内の情報化やコストダウンを図りたい場合など、いろいろなケースが考えられますね。」
- テクノ君 「わかりました。ところで派遣費用はどうなりますか。」
- 山中 「専門家に支払う謝金と旅費の1/3だけ負担いただき、残りの2/3は当センターが助成します。」
- テクノ君 「申し込みはいつでもできますか。」
- 山中 「はい、随時募集していますが、年間実施予定数に達した時点で締め切りとなるのでお早めにご相談いただけたらいいですね。」
- テクノ君 「わかりました。こんな便利な制度を使わない手はないですね。どうもありがとうございました。」

Techno Information

新事業探検 ブレインストーミング

ビジネス活動の中ではなく、問題解決、新商品開発の場面で、アイデア発想のひとこととして「ブレインストーミング」が用いられています。この手法を活用して当財団では今年度10月から2回ほど「新事業探検ブレインストーミング」と銘打つ試行(1回は環境・リサイクル関連、もう1

回は情報通信関連)として見ました。新製品・商品開発、問題解決の場面で経験されている方も多くかと思いますが、1人で考えるよりも複数の人たはより良いアイデアを出し合うというほうがよい結果を生むケースがあります。また、他の人の発想からまったく別の発想が閃くこともありま

テクノビジネス助成 交付企業決定

新事業の展開を支援するための助成金の交付先が、去る1月24日(金)に行われた平成14年度第2回技術等審査委員会での企業に決定しました。

- ◆地域技術起業化助成事業
 - 「日建産業(株)」
 - 「リパビロック(大)型積みブロック」を環境型ブロックへの改良
 - 河川改修などで急カーブでも施工できる「パティロック(大)型積みブロック」を、植物が繁殖可能な状態に植生化する
 - より、環境保護に寄与する
- ◆財団ではテクノポリス圏域企業の研究開発活動などをお手伝いするために、次の制度を設け皆様に利用いただけるよう予定です。次回の審査会は5月の予定です。どうぞお気軽に事務局までお問い合わせください。
- ①F/S支援制度
- ②債務保証事業
- ③研究開発助成事業
- ④地域技術起業化助成事業
- ⑤地域技術起業化支援事業

須賀川アドホックタイ視察

須賀川アドホック研究会では、昨年10月23日から27日まで、五日間、タイの首都バンコクとアユタヤにある工場を視察しました。

タイの特徴としては、治安がよいこと、企業の進出理由にまず挙げられるのがこの点です。また、日本と同じ仏教国であるため親しみやすいこと、国土が平らであり、用地の確保はしやすいが水害に弱いことが挙げられます。訪問企業は三井日系企業一社、現地企業一社、最初に訪れたのは放電加工機メーカーであるソディックタイランド。従業員は、700名ほどです。進出時さまざまな協力工場があったため、各工程をすべて(発電設備まで)自社工場内に構築したそうです。一番目の訪問企業は、パイオニアタイランド。タイなどで販売しているカステレオなどの生産拠点です。従業員は、2,500名ほどで、日本国内と同様に業務改善活動や地域奉仕活動を実施していました。最後に訪問したのは、地元資本のSNCフオーマー。パイプ加工メーカーで従業員は380名ほど。かつて日本企業に勤めていた五〇代の2名の技術者が中心になって運営されています。参加された会員の皆さんは、それぞれの企業の今後の展開の参考にすべく、理解を深めてまいりました。

の発想が閃くこともありま

ユバのびんぐ研究会

財団では今年度福島県から委託を受けユバ・サルデザインを取り入れたものづくりの普及のためユバ・サルデザインのものづくり研究会(委員長 日本大学工学部建築学科教授 若井正一氏)を6回開催しました。これからのものづくりに欠かせないすべての人の使用やすさを追求したユバ・サルデザインをどのように取り入れればよいかなどについて研究活動を行いました。その概要を紹介いたします。

- ①ユーザー対話型のものづくり
- ②ユーザーを正しく理解し、作り手と使い手の対話型デザインを目指すことがとても大切です。
- ③多様なスタンダードの提供
- ④多様なスタンダードの提供により、多くの人々が快適で使いやすい製品に出会えます。
- ⑤プロダクト・パフォーマンス・プログラムのPPPの手法を生かした製品開発
- ⑥PPPは製品のユバ・サルデザインの達成度を数値で表すことによる画期的な評価法です。このPPPが出てきたことにより、企業の製品開発に少なからず刺激となっており、現にこのPPPを自社の製品の評価基準として採用している大手の企業もありま
- ⑦今後他の企業も更に評価法を改良し、開発していくことで、ユバ・サルデザインの原則により忠実な製品が製造されていくことが見込まれます。
- ⑧ユバ・サルデザインのものづくりへの支援
- ⑨これからの企業の研究開発にユバ・サルデザインの思想を取り入れていくには、産学官の連携によるユバ・サルデザイン製品創造の場の設置と製品開発助成など、製品の生産から流通までを考えたバックアップの強化が望まれます。
- ⑩ユバ・サルデザイン顕彰制度の創設
- ⑪幅広い分野でのアイデアを募集し、応募作品の公開審査、顕彰を行うことにより、ユバ・サルデザインの考え方の普及が図れます。
- ⑫ユバ・サルデザイン・センター(仮称)の設立
- ⑬中小企業が本格的なものづくりを実践していくにはいろいろな検証、調査、ヒアリングが必要であり、この機能をもつユバ・サルデザイン・センター(仮称)によるサポートが必要だと考えます。
- ⑭ユバ・サルデザイン・インストラクターの育成派遣
- ⑮ユバ・サルデザイン製品の生産から流通・販売までの一連の活動の全体を通して指導できる人いわゆるユバ・サルデザイン・インストラクターの育成派遣が望まれます。
- ⑯ユバ・サルデザイン普及の近道ともなりま
- ⑰ユバ・サルデザインに携わっていただくことが、ユバ・サルデザイン普及の近道ともなりま
- ⑱ユバ・サルデザインに携わっていただくことが、ユバ・サルデザイン普及の近道ともなりま
- ⑲ユバ・サルデザインに携わっていただくことが、ユバ・サルデザイン普及の近道ともなりま

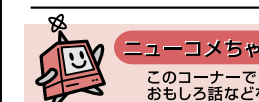
工業関連セミナー

昨年11月27日、郡山商工会議所とテクノポリスによる「工業関連セミナー」がホテルはまぐらで開催され、市内の製造業関係の事業所などから、約60名の出席がありました。

東京理科大学大学院工学研究科長の古川勇二教授が「今、製造業に何が求められているか」をテーマに、国産製造業躍進へのキーワードと展望としてお話しされました。

先生は、「ここ数年日本の中小企業は産業集積が立ち行かなくなり、労働単価の安い中国の台頭によって従来の下請け的な仕事の受注が難しくなってきた」と紹介しました。そして、「日本企業の技術力そのものは高いので、単独ではなく産学官の連携をより

深めて協力しながら新技術・新製品を開発するべきだと話し、特に国の重点分野(情報ナノテクノロジー、生命科学、環境)の技術開発は、大学の研究技術を活用することが不可欠である」と、産学官連携の重要性を強調しました。



ニューコメちゃんのITワンポイント

このコーナーでは、素朴なITに関する疑問や、おもしろ話を掲載しています。

●ニューコメちゃん日記 〇月〇日～ADSLで国際電話の被害

紅葉の話をしたと思ったら、もうそろそろ春が訪れる時期になってしまいましたね。ウィンタースポーツが好きな私ですが、今シーズンは滑りに行けなくてとても残念!皆さんはどんな冬をすごしたのですか? さて、今回は高額通信費の被害についてお話をしようかしら。皆さんはADSL回線を使っているのに、ダイヤルQ2や国際電話の高額な請求が届いたという話を聞いた事はありませんか? インターネットをするのにADSLやCATVの回線を利用していても、パソコンのモデムに電話回線が繋がっていませんか?なんとそれが重要なのです。ADSLなどの回線を使っている、ダイヤルアップ接続が不要なら極力モデムから電話回線は外しておくことがポイントなのよ!

ではなぜ、モデムに回線をつないだままにしておくかのような高

額な請求が届いてしまうのでしょうか。 Webサイトにアクセスをしたとき「あなたは18歳以上ですか?」「続きを読むにはこちら」などのダイヤルアップボタンがでた経験はありませんか? 実は、これが原因になっていることが多いためです。ここで「はい」などを選択してしまうと、パソコンに書換プログラムが送り込まれてしまい、ダイヤルアップの接続先をダイヤルQ2や国際電話番号に書換られてしまう。その後、インターネットに接続をしようとする、書換られた設定先にダイヤルアップをしてしまい、そこから高額な請求がきてしまうわけ。

今までに驚が仕掛けてあるのが多かったのは世のお父さん達が大好きなアダルトサイトがほとんどだったけど、最近ではあらゆる分野のWebサイトに仕掛けてあるのだ。一瞬に「怪しいサイト」に近づいたら大丈夫!とは言えなくなってきた。 金銭的被害が発生しているのは、国際電話やダイヤルQ2に電話をかける事が多く、また、ADSLやCATVなどの回線を使っている、ソフトがモデムを使って電話をかけることが可能な場合、被害は発生します。モデムから回線を外しておけば、電話をかけることはできなくなるわけだから、身に覚えのない電話料金を受け取ることは無くなるわ。

でも、世の中には悪徳業者も数多く、名簿業者から入手したリストを利用して、国際電話料金やダイヤルQ2情報料などの架空の請求書を勝手に送りつけてくることもあるから気をつけて下さいね。身に覚えのない請求は無視しても構わないけど、警察に通報した方がいいかもしれない。

今は電話会社での対策もあって、NTT東西はダイヤルQ2にパスワードの機能を追加した。国際電話被害の90パーセント近くがティエゴ・ガルスシアとセインジェル向けの通話で大手国際電話5社は両国へのダイヤル通話をできなくしてあるようです。

このような対策により、被害は少なくなっていますが、それでも被害を受けたいとは限りません。いつでも自衛は必要なのです。「もしかしら」の意識を持って常日頃から気をつけるようにしましょうね。

●身近でこんな事がありました。など、面白い話がありましたら事務局にお聞かせ下さい。

郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会 E-Mail info@nm.net.6r.jp



Techno Information

日本大学工学部 環境保全・共生共同研究センターが オープンします。

日本大学工学部敷地内に建設されている「環境保全・共生共同研究センター」のオープンが、いよいよ近づいてきました。

この施設は、持続的発展が可能な「循環型環境共生社会の創生」を目標とし、自然と人間の環境保全と共生という視点に立つ、土木や建築、機械、情報等の様々な学科の研究者が、継続的な共同研究を実施し、地方都市における環境保全のあり方を提示するとともに、これらの研究を通じて地球環境問題の解決に貢献することを目的として作られる施設です。

この施設で主に研究されるプロジェクトは、次の2つですが、これは平成14年度文部科学省学術フロンティア推進事業の指定を受けています。

① 地域環境の評価と保全に関する研究

プロジェクトリーダー 土木工学科・長林久夫教授

- 水域環境の評価と保全に関する研究
- 地盤環境の災害ポテンシャル評価と保全に関する研究
- 都市環境の評価と保全に関する研究
- 土木建築構造物の維持管理手法研究

お気軽にご利用ください テクノポリス技術サポートオフィス

日本大学工学部と財団では共同でテクノポリスの事務所に「日本大学工学部工学研究所テクノポリス技術サポートオフィス」を開設し、多くの企業の皆さんにご利用いただいています。開設時間は毎週月曜日から金曜日までの午前10時から午後3時まで。日本大学工学部のOBの先生方が技術アドバイザーとして常駐し、長年培った専門知識を駆使し、懇切丁寧に相談に応じています。

また、先生の持つネットワークを生かし、大学の窓口として、工学部の先生方への仲介も行っていきます。具体的な相談例としては、備長炭に関するものから、ダイオキシン対策に関するもの、安山岩

② 環境共生のための支援、教育、公開及び危機管理を支える情報通信技術の研究

プロジェクトリーダー 電気電子工学科 木田拓郎教授

- 環境保全のための計測・予測に関する研究
- 遠隔計測・制御用センサー開発とセンサシステムの研究及び環境変化予測システムの構築
- ミクロ環境の予測と評価システムの研究
- 通信システムの急な変動に対応できるデジタル多重通信システムの開発。デジタル多重通信とインターネットを活用した情報公開・遠隔教育システムの研究

これらのプロジェクト及び研究内容について地域の企業の皆様にも説明するシズ説明会が昨年の11月13日に開催されました。

当日は、研究テーマに興味を持つ34名の方が参加され、それぞれの研究テーマの担当教授の説明に熱心に聞き入っていました。



の商品化に関するもの、廃材の再利用に関するもの、ソーラー発電に関するものまで様々な相談が寄せられており、企業の製品開発における技術的なバックアップを行っています。

「このような現象の原因は何ですか?」「解析方法は?」「現在、こんなことで困っている」「こんなことをやってほしい」など、技術に関してどんなことでもお気軽にご相談下さい。



Techno Salon



今回は石川町に工場があるナショナルマシンプラスチック社の長の時田周明さんと産業振興センター技術支援部の科学技術コーディネーター岡崎行男さんです。

「種まきザクラ」に学ぶ

株式会社ナショナルマシンプラスチック
取締役社長 時田周明



福島県は桜の巨樹や老古木が多いと思います。中でもシダレザクラとして最古最大の、「三春滝ザクラ」は全国的に知られています。高さ一九メートル、根回りは一〇・五メートル、推定樹齢七八〇年。地元では「二〇〇〇年」でまかりとおっています。一九二三年(大正一一年)国の天然記念物に指定されました。一般的に桜は公園、寺、神社の境内そして、

「会議文化」

テクノコム 科学技術コーディネーター
岡崎行男



「入社会議どう減らすか」また会議。第一生命保険が昨年末に募集したサラリーマン川柳の入選作品百編の中の一句である。サラリーマンなら、この句に「ヤリ」とされた方は多いのではないだろうか。会議を見ればその組織の性格が分るといわれる。小職も昨年9月より、福島県産業振興センターテクノコムでコーディネーターを務めることに相成って、一番戸惑ったことは、以前に勤めていた企業との会議文化の違いである。会議の開始時間と終了時間が守られているのは、感服する。部門間の利害・責任範囲で議論し

えてくれました。樹齢五〇〇年位のザクラはエドヒガンが多いようです。巨樹が今日まで育つ条件は①太陽に照らされ風通しが良い事②地下水が豊富な事③地域の人達が大切に守りしていた事などがあげられます。ビジネスの世界で仕事をしている私達も参考になる点と考えます。



る関与意識・責任感の醸成や、共有すべき関連情報がその会議参加者に伝わるという周知、教育の効果も否定できない。

大企業病の処方として分社化や組織のフラット化が大流行である。これによる意思決定プロセスの簡素化、スピードアップで会議文化が変わりつつあり、正に「会議は組織の鏡」である。



編集後記

花粉症の人にはまた憂鬱な時期がやって来ました。これほど科学が発達してきているのに、抜本的な解決策もなく、患者も増えてきている状況です。解決策を見つけた方にノーベル賞をあげたいくらいです。先日テレビで電磁波による健康被害の話題を取り上げていました。文明の発達に伴って新たな問題が生じてきます。抗菌薬も人間の免疫力の点を考えればどうなのかと思います。世の中は便利さや効率性を求めて急速に変化しています。旧人類の私はこんな急速な変化に人間の精神が耐えていけるのか心配です。

